

平成29年3月27日那須雪崩事故検証委員会第一次報告書（概要版）

第1 はじめに

1 平成29年3月27日那須雪崩事故検証委員会の設置目的等

設置目的： 平成29年3月27日、栃木県高等学校体育連盟主催の春山安全登山講習会中に発生した雪崩事故について、事故の状況、課題等の検証を行うとともに、事故の再発防止に資するため、第三者の有識者による雪崩事故に関する検証委員会を設置

所掌事務： 雪崩事故の原因等の調査及び検証及び再発防止に向けた提言

委員構成： 委員会は「委員」及び「協力委員」から組織

① 委員（定数10人以内）

本件事故に関して第三者の有識者から委嘱

② 協力委員（定数5人以内）

本件事故に関して委員の求めに応じて、委員が行う調査等に協力

2 委員会の基本方針

○ 責任追及は目的としない。

当委員会は、関係者の民事・刑事等に関わる責任追及を目的とするものではなく、公正・中立な立場から本件事故に関わる事実を調査・検証し、学校の管理運営の観点から事故の原因や問題点を明らかにした上で、安全管理等の改善策を検討し、類似の事故の再発防止に資することを目的とし調査・検証を進める。

○ 関係者の疑問に答え、納得できる調査・検証を目指す。

当委員会は、直接的な事故の状況に限ることなく、可能な限り組織的、社会的な部分をも含めて背景事情を明らかにすることを目指す。

○ 認定に係る事実の確実性の程度に即して表現を統一する。

調査においては、提供された資料や関係者からの聞き取りの結果から、過去の事実を認定し、これを分析評価の対象とする。

この認定した事実がどの程度確実なものかは一様ではないため、事実の認定に係る確実性の程度に即し、次表により文末の表現を統一している。

事実認定に係る確実性の程度	用いた表現
動かしがたい事実として認定できる場合	<p>・・・である。</p> <p>・・・している。</p>
高度の確実性がある、間違いない事実と認められる場合	<p>・・・と推定（推認）される。</p>
可能性が高い事実と認められる場合	<p>・・・と考えられる。</p>
可能性がある事実の場合	<p>・・・の可能性はある。</p>
可能性が否定できない事実の場合	<p>・・・の可能性が否定できない。</p>
明らかにできなかった場合	<p>・・・を明らかにすることはできなかった。</p>

3 当委員会のこれまでの活動状況

委員会： 第1回 平成29年4月16日（日） 県公館中会議室
第2回 平成29年6月3日（土） 県公館中会議室
第3回 平成29年6月17日（土） 県公館中会議室
第4回 平成29年6月30日（金） 県公館中会議室
現地調査： 1日目 平成29年5月14日（日） 大田原高校
2日目 平成29年5月15日（月） 那須温泉ファミリースキー場
なす高原自然の家

4 第一次報告の位置付け及び当委員会の今後の活動予定

- 第一次報告は、これまでに判明した調査・検証の結果及び問題点の指摘を中核とするものであり、以下の5点について、現時点までの調査・検証により取りまとめが可能な範囲で報告する。
 - ① 春山安全登山講習会の計画・運営状況
 - ② 同講習会の当日の活動状況
 - ③ 事故発生時の状況及び対応
 - ④ 初期対応時の取組
 - ⑤ 初期対応終了時から現在までの取組
- 第一次報告では以下の2点については扱わない。（最終報告において扱う）
 - ① 事実関係が明確になったことを前提として検討すべき論点
 - ② ①に即した事故の分析・評価等に係る最終的な判断
- 第一次報告で取り上げた事項であっても、事実関係の解明が十分でなく現時点では確定的な評価を下すことが困難なものについては、必要な調査を継続し、最終報告においてその結果を報告する。
- 最終報告は、平成29年9月末を目途に取りまとめることを目標とする。